

北海道檜山北高等学校の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和6年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	総合学科の特徴を活かし、探究活動であるキャリア学習と連携し、STEAM教育を推進する。また、本校栽培品及び加工品の製造から地域行事への参加、販売会の実施を行う。	商業科、家庭科との科目横断的な学習を行い、商品開発のプロジェクト学習に取り組んだ。また、各種販売会において本校生産物の販売を行い、地域産業への積極的な参画に取り組んだ。	シラバスへの位置づけ、年次をまたいだプロジェクト学習への取り組み。また、地域へ出た教育活動を行う際の受け入れ先が不足していること。	5
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	国際交流及び海外農業実習等の情報提供を積極的に実施する。	生徒に対して海外農業実習や国際交流に関する案内、ガイダンスを実施した。	国際的な企業との連携。	4
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	出前授業やインターンシップを通して、地域農家の生産技術や経営について学習を行う。	振興局や農業改良普及センターと連携し、出前授業を実施した。また、JAの婦人部や青年部の方を講師に招いて、講演会を実施した。	農家インターンの受け入れ先の新規開拓。講演や出前授業を行ってくださる講師の方の新規開拓。	4
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	地域産業についての学習を実施する。	課題研究をはじめとした授業内で、地域特産品を中心とした栽培、加工を行った。また、地域農産物の商品開発を実施した。	地域と連携した商品開発及び販売会の実施。JAや農家訪問などの実地研修の不足。	5
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	SDGsの考え方を基に、地域環境や農業の現状について学習を深める。	SDGsを授業の目標に位置づけ、授業の到達目標としてプロジェクト活動等を実施した。	活動の外部発信活動の不足。SDGsに対する理解を深める学習活動が不足。	5
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	地域資源を活用した加工品の製造及び販売を行い、地域の活性化につなげる。異校種及び異年齢交流を実施する。地域で行われている各種行事へ参加する。	今金高等養護学校と連携し、緑化運動を行った。地域の特産品を活かした商品のアイデアレシピを町役場や外部企業と連携し、開発した。	町内の小中学校との異年齢交流が少ないこと。町内の特産品を題材とした商品開発・PR活動。	5
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	ICTを活用し、「スマート農業」や「AI・IoTと農業」、「クラウドシステムの活用」についての学習を行う。また、農業データ連携基盤（プラットフォーム）について理解を深める学習を行う。	栽培記録や生育調査などのデータをICTを活用し、まとめた。また、スマートフォンの積極的な活用に取り組み、記録に活用した。	ドローンや無人トラクターなどの講習。タブレットを活用した実習及び授業の展開。	5
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	地域防災教育として、農地防災事業や農地の防災協力など多面的機能について理解を深める。また、農機具等の扱いなどに関する安全教育を推進する。	農機具やトラクターに関する安全講習を実施した。	農機具メーカーや企業との連携した授業が実施できていないこと。地域へ出たフィールドワークや実地研修の不足。	4